

4000名を超えたVoIP認定資格取得者 人材育成でも業界を支えるIPTPC

沖電気工業とNECが共同運営するIP電話普及推進センター (IPTPC) の教育プログラム制度「VoIP認定技術者資格」の取得者が、2004年12月末までのべ4000人を突破した。資格取得への取り組みも、通信業界の枠を超えて広がり始めた。「業界標準」を標榜するIPTPCは、人材育成の面でもその地歩を固めつつある。

通信業界では、VoIPネットワーク・システムに対する需要の高まりを受けて、ユーザー提案やシステム構築、工事・保守などの実務に関するスキルを持った人材確保が悩みの1つになっている。

この課題を解決する方法として、IPTPCでは2002年11月から、VoIPシステム構築の知識・技能を備えた技術者の育成を支援する「VoIP認定技術者資格制度」(以下、VoIP認定資格)と、各種研修プログラムを提供している。

沖電気工業・IP電話普及推進センターの野入晃担当部長は、「この制度は、広く一般に認められるスキルを身に付けられるようにすることを狙っています。VoIPに主眼を置いたこのような資格制度の設置は、世界的にも例のない取り組みです」と語る。

それでも当初は、沖電気の社内あるいは販売パートナー向けというイメージが強かった。しかし、2003年1月にIPTPCの運営に関するNECとの協業が発表され、同年7月からVoIP認定資格の共同運営が始まったことで、業界内の認識も変わってきた。

共同運営に携わっているNEC・UNIVERGEソリューション推進本部の



NEC
UNIVERGEソリューション
推進本部
統括マネージャー
服部高明氏



NEC
UNIVERGEソリューション
推進本部
UNIVERGEサポートセンター
主任
山沖哲治氏

服部高明統括マネージャーは、「IPTPCのVoIP認定資格は、業界標準のスキルを証明するものですから、ビジネスを展開するうえでも有効な武器となります」という。

この言葉を証明するかのよう、資格取得者数の伸びも加速。2000名到達はスタートから約18カ月後の2004年4月末だったが、8カ月後の12月末には、倍増の4000名突破を記録した。

基礎知識の研修コースを細分化

VoIP認定資格には現在、実際の職務に合わせた次の3つが設けられている。

- PART1 IP電話普及推進センター紹介
- PART2 音声品質評価ソリューション
- PART3 コンサルティングソリューション
- PART4 教育ソリューション
- PART5 機器実証ソリューション
- PART6 オープンソリューション
- PART7 ネットワーク構築事例
- PART8 ネットワーク構築事例2
- PART9 e音ソリューション
- PART10 ネットワーク構築事例3
- PART11 サービス導入事例
- PART12 情報通信融合ソリューション
- PART13 システム導入事例
- PART14 システム導入事例
- PART15 VoIP認定技術者資格制度



沖電気工業
IP電話普及推進センター
担当部長
野入晃氏



沖電気工業
ISCビジネス本部
IPサービス部教育チーム
チームリーダー
三宅和裕氏

ユーザー提案に携わる営業を対象とした「VoIPアドバイザー」

ネットワークやシステム設計などを手がけるSE向けの「VoIPデザイナー」

VoIP機器の設置・施工、運用・保守に携わる工事・保守担当者向けの「VoIPストラクチャー」

VoIPアドバイザーおよびVoIPデザイナー試験についてはCBT(Computer Based Testing)を採用。教育・試験サービスプロバイダーであるジェイ・ジェイ・エスとの提携により、47都道府県すべてを網羅した全国100カ所以上の試験会場を用意しており、受験者の都合のよい日時に、各会場のPC端末を使って試験を受けられる。問題は4択形式で計40または50問。試験時間は50分間となっている。

一方、「受験への備え」となる研修プログラム(IP電話技術者育成プログラム)は、東京・横浜・大阪などで定期的に開催する集合型研修だけでなく、NTTアドバンステクノロジとの提携によるeラーニング研修コースも用意。場所や時間にとらわれずに学習を続けられる環境も整えている。

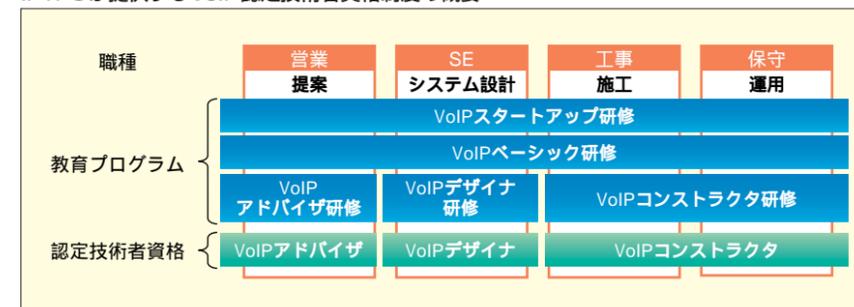
研修内容に関しては2004年8月、より広範なレベルの技術者や営業マンが最新のVoIP技術を体系的に習得できるようにリニューアルされた。

具体的には、主に営業向けに提供してきた従来の「VoIP基礎研修」を、「VoIPスタートアップ研修」と「VoIPベーシック研修」の2段階に細分化し、「VoIPアドバイザー研修」「VoIPデザイナー研修」「VoIPストラクチャー研修」と合わせた計5つのコースに再編成した。また、沖電気工業・ISCビジネス本部IPサービス部教育チームの三宅和裕チームリーダーによれば、「受講者からも要望が多かったSIPやセキュリティなどの最新動向を盛り込み、各コースの項目や難易度を調整しました」という。このリニューアルで、資格取得にも一層取り組みやすくなったといえる。

3月末で取得者6000名を目指す

4000名を超えたVoIP認定資格取得者は、すでに過半数が沖電気、NEC

IPTPCが提供するVoIP認定技術者資格制度の概要



IP電話技術者育成プログラム(認定コース)の概要

コース	内容	対象者	受講前提条件
VoIP スタートアップ 研修(1日)	VoIPのベースとなるTCP/IPやIPネットワークの仕組み、QoS、セキュリティなど、VoIPを支える知識・技術を中心に、VoIPの基本を習得	TCP/IPなど基本から始める方	特になし
VoIPベーシック 研修(1日)	VoIPの原理、構成要素、使用されるプロトコル、音声品質など、VoIPの一般的な基礎知識・技術を習得	VoIPの基礎技術について学習する方	TCP/IPなどの基本的知識を保有またはVoIPスタートアップ研修の受講
VoIPアドバイザー 研修(1日)	小規模から大規模VoIPネットワークを提案するために必要なスキルの習得を目的に、各種VoIP製品の特徴、用途に関する一般的な知識および技術を学習	VoIP機器を導入・選定・提案される方	VoIPベーシック研修の受講またはVoIPに関する基本的知識を保有
VoIPデザイナー 研修(2日)	VoIP製品の機能について学習し、VoIPネットワークの具体的な設計手法を習得	VoIP製品を用いてVoIPネットワークを設計される方	VoIPアドバイザー資格または同等のVoIPの一般的な知識を保有
VoIPストラクチャー 研修(2-7日、製品による)	VoIP機器の設定方法およびVoIPネットワーク構築手法を実習中心に学習し、設置工事・現地調整試験、運用開始後の点検・障害調査に対応できるスキルを習得	VoIP機器を設置・調整・保守される方	VoIPアドバイザー資格または同等のVoIPに関する知識を保有

以外の企業の人材で占められている。

一番の中心はやはり通信機器ディーラー/SI。VoIP認定資格の共同運営に携わっているNEC・UNIVERGEソリューション推進本部UNIVERGEサポートセンターの山沖哲治主任は、「新入社員教育の目標として、VoIPアドバイザー資格取得を掲げている企業もあります」という。

ただ、このところはデータ系・コンピュータ系SIあるいはIP電話サービス事業者が、スキルアップに向けて全社的に取り組む例も目立っている。資格取得のメリットに対する認識が広がりを見せているということだ。

IPTPCでは、次の目標として2005年3月末で資格取得者6000名達成を目

指している。そして、「さらに多くの方に支持していただくために、研修プログラムの内容もより充実させていく考えです」と、服部統括マネージャーは話す。例えば、受講者から「VoIPに関する深い知識もさることながら、ソリューション提案に生かせる広い知識を学びたい」という声が多くあることから、今後も研修コースの新設や再編成を逐次検討していくという。

野入担当部長も、「私どもは、単に資格取得者数を増やせばよいと考えているわけではありません。業界全体のスキルを底上げし、VoIP市場を大きく広げていくことが真の目標です」と、IPTPCが果たすべき役割を改めて強調している。